

## 平成29年3月期 第72期 業績概要 第3四半期

桂川電機株式会社

当第3四半期連結累計期間(平成28年4月～平成28年12月)におけるわが国経済は、大手を中心とした企業収益や雇用環境の改善を背景にして緩やかながらも景気は回復基調が継続しているものの、為替相場及び金利動向等の先行きや新興国経済の減速、英国のEU離脱問題、2017年1月からスタートする米国新政権の政策の不確実性などの影響が懸念され、企業業績の先行きに不透明感が強まる状況で推移してまいりました。世界経済は、米国経済の個人消費と雇用・所得環境が改善し景気回復が進み、欧州経済は英国のEU離脱問題により懸念された世界経済の影響は限定的だったことから、緩やかながら景気は回復基調となりました。一方、アジア経済は中国を始めとする新興国の経済減速が懸念されており、南米の景気減速、中東リスク等、世界経済の不確実性の高まりから、依然として先行き不透明な状況で推移してまいりました。

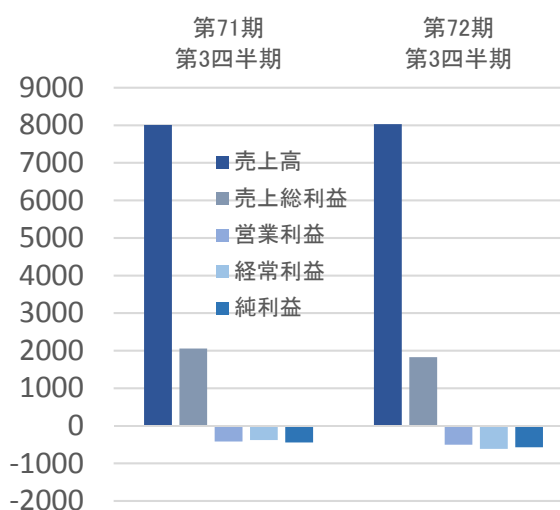
こうした中、当社グループにおきましては、昨年投入した大判型カラープリンタは好評を維持し、北米や欧州の受注増で販売台数は伸びましたが、企業間価格競争の激化は止まらず販売価格は下落し、アジア経済の減速による中国・ロシアなど新興市場における販売低下等で売上高は圧縮され、さらに為替においては、前年同四半期に比べ約10%の円高となり、外貨建て売上高の円貨換算額が減少となりました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、前年同四半期より24百万円増収の80億30百万円となりました。営業損益はコスト低減に努めてまいりましたが、計画していたコストまで届かず売上原価率は大きく悪化し5億6百万円の損失(前年同四半期は4億18百万円の損失)、経常利益は、1億22百万円の為替差損を計上したため6億14百万円の損失(前年同四半期は3億81百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、5億74百万円の損失(前年同四半期は4億45百万円の損失)となりました。

連結業績概況

<単位:百万円>

項目	第71期 第3四半期	第72期 第3四半期
売上高	8,006	8,030
売上総利益	2,055	1,825
営業損益	△418	△506
経常損益	△381	△614
親会社株主に 帰属する 四半期純損益	△445	△574



<単位:百万円>

## 事業別の業績

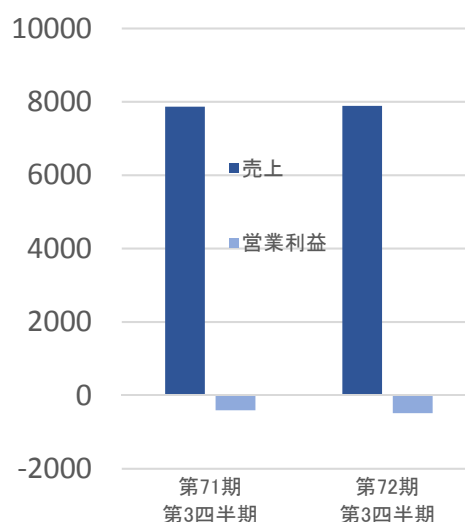
### 画像情報機器事業

画像情報機器事業の当第3四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べて21百万円増収の78億87百万円(前年同四半期は78億66百万円)となり、営業損益は、4億89百万円の損失(前年同四半期は4億8百万円の損失)となりました。

- ・売上は昨年同時期と比べて21百万円の増収
- ・昨年投入した大判型カラープリンタの売上げは好調を維持
- ・経費節減の効果はあったものの価格競争の激化等により売上原価率の悪化に苦しむ

<単位:百万円>

	第71期 第3四半期	第72期 第3四半期
売上	7,866	7,887
営業損益	△408	△489



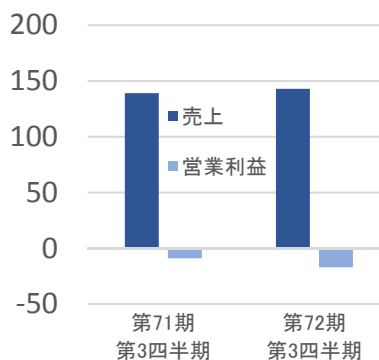
### その他事業

その他事業のモーションデバイス事業の当第2四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べて3百万円減収の89百万円(前年同四半期は86百万円)となり、営業損益は、15百万円の損失(前年同四半期は5百万円の損失)となりました。

- ・モーションデバイス事業の販路拡大を継続
- ・顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力

<単位:百万円>

	第71期 第3四半期	第72期 第3四半期
売上	139	143
営業損益	△9	△17



## 営業外損益

営業外損益は1億22百万円の為替差損が大きく影響したことにより1億7百万円の損失となりました。

<単位:百万円>

	第71期 第3四半期	第72期 第3四半期
営業外収益合計	76	49
営業外費用合計	40	156
営業外損益	36	△107



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート  
【出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティング】